

# 時代ごとに見る仏像の特徴

3年 組 番 名前

目当て…仏像の鑑賞を通して美術文化に対する理解を深めることができる。

前回は仏像の記号について学びました。今回も引き続き仏像に関する知識を学び、美術文化に対する理解を深めていきます。

## 時代別に見る仏像の特徴

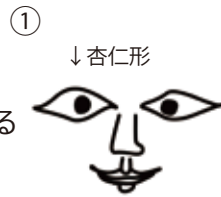
前回学んだように仏像には、仏様の種類を表すために決められた記号があります。そのため、仏像の恰好やポーズは似たものが多い、皆さんの中には「仏像って同じようなものが多いと分かんない」と感じる人もいるのではないかと思います。しかし、仏像の長い歴史の中には表現の流行り廃りがあり、時代により表現のブームのようなものがあります。今日は一部だけですが、そんな時代ごとの仏像の特徴について学びます。

### 仏像の顔の表現

仏像の時代別の特徴はたくさんありますが、今回は顔に着目して鑑賞をします。仏像にとって顔の表現はとても重要なものであり、時代によってその特徴が大きく出ます。

#### 飛鳥時代 (592年～645年)

飛鳥時代の仏像の顔は目や鼻など、顔の各パーツが左右対称に作られた物が多く、目の形が杏仁形と呼ばれる図①のような形が多い。表情が固い印象の物が多い。

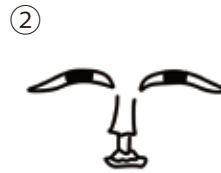


→ 飛鳥時代  
「救世観音像」  
法隆寺

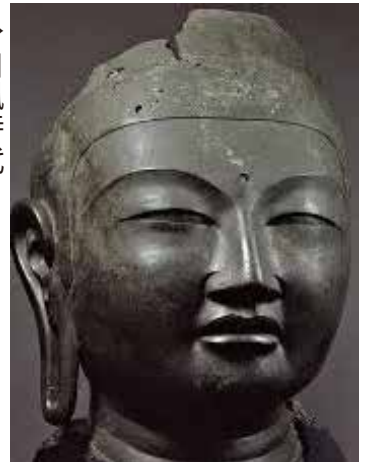


#### 白鳳時代 (645年～710年)

飛鳥時代の終わりの方を白鳳時代と呼ぶことがあります。このころの仏像の顔は前の時代に比べて少し柔らかい印象になり、子供っぽい顔にするのが流行っていたようです。



→ 白鳳時代  
旧山田寺「仏頭」

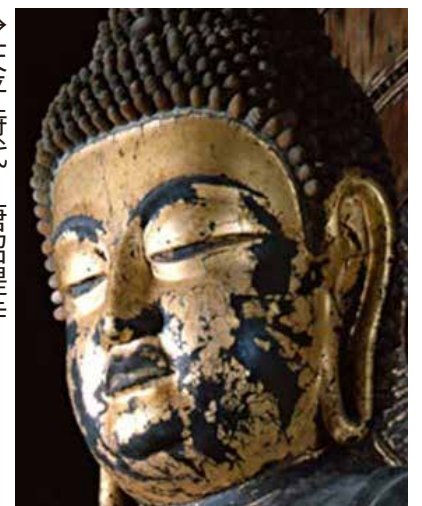


#### 天平時代・平安時代 (729年～1192年) ③

天平時代平安時代にかけては丸顔で伏し目がちな顔の仏像が多いです。



→ 天平時代  
「薬師如来像」  
唐招提寺



### まとめ

このように仏像を鑑賞する時には、種類を表す記号と表現の違いの視点から鑑賞をすると、仏像のおもしろさが分かるのかもしれない。

### 課題

今回は仏像の鑑賞を通して記号は同じだけど表現が違うものについて学んだと思います。今回の課題は皆さんの身の回りのもので記号は同じだけど、時代や作者によって表現が違うものを探して、どんな記号が同じでどんな表現が違うのか説明してみましょう。図を使っても、画像を貼り付けても構いません。

※枠が足りない場合は裏面や別の紙に書きましょう